

堂満岳 (1057m)

[※ 実施日--2023年10月24日(火)]



(ハイライトシーン)

※弥生班 計6名、(木村、岡本、山本、河原、上畑、有本)

① (7:15--イン谷口で登山届)



② (登山口)



④ (紅葉)



③ (堂満岳)



⑤ (金箕峠)



⑥ (下山)



堂満岳 (1057m)

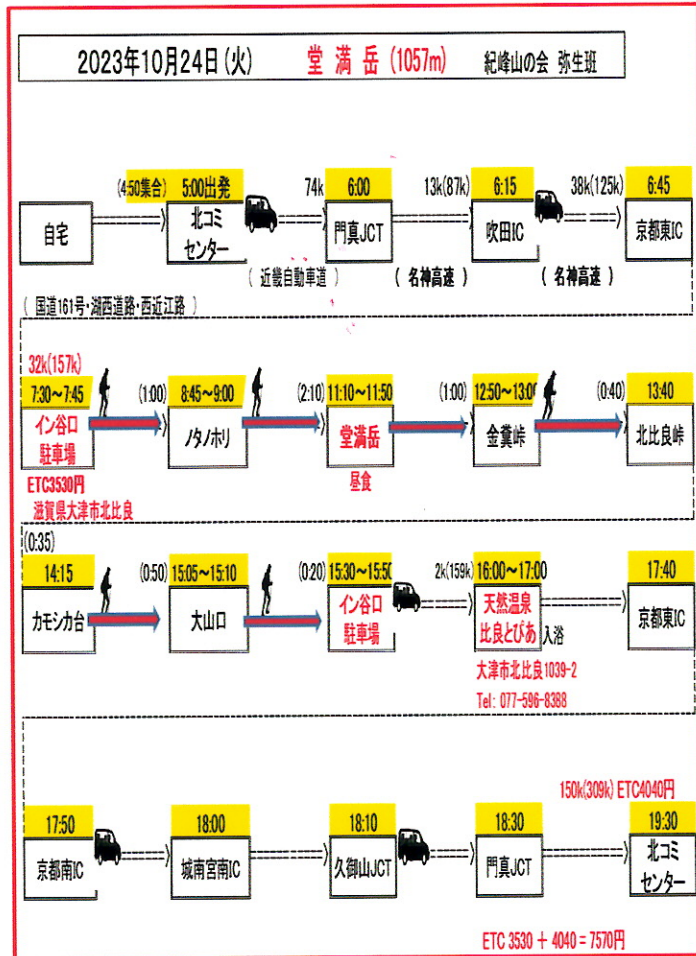
紀峰山の会 (弥生班)

※(山行日) ----- 2023年10月24日(火)

(メンバー) ----- 計6名

木村、岡本、山本、河原、上畑、有本

※(行程) [予定・結果]



※[はじめに]

- 『堂満岳』(1057m)は比良山系のほぼ中央に位置する山。堂々とした三角錐の山容は山麓からよく目立つ山で、雪が積もった姿が美しいことから暮雪山の別名がある。
- シャクナゲが多く咲く山で、山頂からは琵琶湖側に展望が開け、山頂北側にはガレ場があり、アルペン的な雰囲気を持つ。

(写真1) (イン谷口で登山届)



- 北コミ 5時出発しイン谷口へ7時15分到着。駐車場で準備体操、本日の行程の打合せ後、登山届を提出し、いざ出発。

(堂満岳のロードマップ)



(写真2) (登山口)



- 本日は、イン谷口 7時30分出発。ノタノホリ～堂満岳～金糞峠～北比良峠～大山口～イン谷口の周回コースで9時間の予定で出発。

(写真3) (ノタノホリ池)



・ 8時45分ノタノホリ到着。

(余談)

・『ノタノホリ』の地名の由来は、【ノタ=沼田】で、元々はイノシシが泥浴びをする為に田んぼに下りてきたところを猟師が仕留める猟方を、【沼田で待つ】という意味から【ヌタマチ】と言われたそうです。そこからイノシシが泥浴びをする様を【ヌタウツ】と呼び、この【ヌタウツ】が次第に【ノタウツ】に変化した。以上から『ノタノホリ』の由来は【沼田の堀】ということになるそうです。

(写真4) (倒木を潜る)



・ 倒木が多いコースである。

(写真5) (急登-1 余裕の表情?)



(写真6) (急登-2 もうすぐ頂上?)



(写真7) (堂満岳)



・ 11時20分、堂満岳の頂上へ到着。
ここで昼食と休憩で楽しい30分を過ごす。

(写真8) (青空とリンドウの花)



(写真9) (紅葉を楽しむ)



(写真 10) (分岐点)



(写真 13) (下山)



(写真 11) (金糞峠)



(写真 14) (沢渡り)



(写真 15) (大山口へ下山)



(余談)

- 金糞峠、この峠、どうして「金」と「糞」の文字を並べたのか、「くそ」と口に出すのは、言いづらい。
調べてみると、この峠に「かなぐそ(金属を精錬するときに出る残滓)」の石が堆積していたことからついたと言われているようです。
- 滋賀県には、「金糞岳」もあります。

・ 16時30分、無事下山

(写真 12) (カモシカ台)



[最後に]

- 天気はよく、程よい気温で堂満岳までは予定通りの時間配分で快適であった。
後半は、ガレ場や段差のあるルートで歩きづらく時間を要した。
- 紅葉にはまだ早かったが、リンドウや草花、そしてびわ湖の景観を楽しめ、下山後の入浴で心の洗濯ができ、満足な山行となった。